

研究課題名	循環動態が不安定な脾損傷患者における動脈塞栓術の検討
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科放射線診断学 教授 栗井和夫
研究期間	実施許可日 ~ 2026年3月31日
対象者	2010年4月から2022年3月の間に、広島大学病院放射線診断科および県立広島病院で外傷による脾損傷に対して動脈塞栓術による治療を受けられた患者さん
意義・目的	動脈塞栓術の効果については、現在循環動態が安定している（血圧が低くない、など）患者さんには有用ということが明らかになっていますが、循環動態が不安定（血圧が低い、など）な患者さんについては一般的には手術が行われており、動脈塞栓術の有用性はまだ解明されていません。本研究によって循環動態が不安定な患者さんにも動脈塞栓術が有用であることが明らかになれば、治療の選択肢が増え、臨床の場において外傷の治療戦略の幅が広がると考えられます。
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は年齢、性別、来院時血圧、体温、輸液への反応、来院時間、再出血の有無、脾摘の有無、院内死亡の有無。採血データよりヘモグロビン値、血小板値、Base excess、FDP 値、Dダイマー、他部位損傷、ISS（injury severity score）です。</p> <p>また、画像（CT、血管造影）から造影開始時間、止血時間、塞栓部位（本幹・一次分枝・二次分枝）、塞栓物質、AAST（外傷分類）について調べます。</p> <p>取得した情報は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を用い、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。</p> <p>県立広島病院のデータは、上述のように誰のものか分からないように加工された情報を、広島大学限定のクラウドによって、広島大学病院へ（提供先）に提供し、解析に用いられます。（県立広島病院（提供元）から提供されます）</p>
研究の実施体制	<p>研究代表者 広島大学病院放射線診断科 教授 栗井 和夫</p> <p>共同研究機関（研究機関、研究責任者、研究機関の長）</p> <p>研究機関・責任者 県立広島病院放射線センター長（兼）主任部長 稗田 雅司</p> <p>機関の長 県立広島病院 院長 坂本 敏行</p>
試料・情報の管理責任者	広島大学 放射線診断科 教授 栗井和夫
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p>

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5257

広島大学病院放射線診療科 助教 三谷 英範